

2023年度

事 業 報 告

(2023年1月1日～2023年12月31日まで)

公益社団法人競走馬育成協会

2023 年度 事業報告

公益社団法人競走馬育成協会

概況

感染症法上の位置付け変更によりコロナの生活への影響が小さくなった 2023 年ではあったが、前年から続く異常気象、収束の気配がないウクライナ問題や物価高に加え、軍事衝突の勃発により緊迫化の一途をたどる中東情勢など、国の内外を問わず不安定な情勢が継続している。このような中であっても日本の競馬は、世界一と称される馬の活躍等もあって大いに盛り上がり、中央・地方ともに好況が続いている。

競走馬育成協会も、コロナにより制約を受けた活動の再開を進めながら、新設された「飼料等高騰対策緊急事業」を含む各施策にあたった。

育成技術講習会については、昨年感染拡大への危惧から中止となった関東と関西を含め、5 会場で計画どおりに開催した。就業者参入促進事業（BOKUJOB）では、関東・関西の「牧場で働こう見学会」と「メインフェア（於東京競馬場）を 4 年ぶりに催行し、多数の参加者を得た。一方、令和 2 年度から実施している「Web 相談会」、「Web フェア」も引き続き実施した。競走馬育成技術表彰は、会員育成馬の勝利数および該当率が引き続き高水準を維持しており、会員牧場の育成技術の高さが窺えた。また、競馬場における表彰式を、計画した 2 歳重賞競走で実施した。

その他、海外派遣研修は長期 2 件を実施したほか、修学奨励金交付、競馬関連機材等有効活用、利子補給、協会誌発行等を例年通り実施した。

なお、以下において「公益事業」とは馬に関わる不特定多数の利益となる事業を、「収益事業等」とは当協会の会員を対象とした事業を指す。

1. 軽種馬の育成調教技術の向上に関する普及、啓発及び指導

1) 育成技術講習会の開催（公益事業）

JRA および公益財団法人軽種馬育成調教センター（BTC）との連携・共催による講習会を開催し、会員のみならず一般からの参加も得た。2023 年は前年見送られた関東および関西地区を含め、北海道から九州までの全 5 地区で開催することができた。

また、JRA 日高育成牧場主催の「強い馬づくりのための生産育成技術講座 2023」を北海道地区の牧場に、賛助会員が協賛する飼料に関する講習会を関東および関西地区会員に各々案内するとともに、JRA 主催「スポーツ科学セミナー」への会員の Web 聴講を手配した。

2) 競走馬育成調教技術表彰事業（収益事業等）

競走馬の育成調教の技術向上、育成調教者の経営基盤強化および意欲増進を図るため、成績優秀な競走馬の育成者を表彰した。

表彰対象 567 競走のうち、55 会員の育成馬が優勝した 374 競走について表彰を実施し

た。表彰の該当率は66.0%、とくに2歳新馬競走で83.7%、2歳重賞・リステッド競走では95.0%と引き続き高い水準にあり、会員が業務に精励した成果が表れた。さらに、2022年より再開した育成協会会長表彰の対象である2歳ステークス競走6競走（札幌・函館・新潟・小倉・京王杯・デイリー杯）でも、全競走で会員の育成馬が優勝し、会員の高い育成技術の証左となった。

	表彰対象 競走数	前年比	会員優勝馬 表彰該当数	前年比	該当率	前年比
3歳新馬競走	45	±0	37	-2	82.2%	-4.4P
2歳新馬競走	257	+1	215	+8	83.7%	+2.8P
2歳重賞 ・リステッド競走	20	±0	19	+1	95.0%	+5.0P
3歳以上重賞 ・リステッド競走	178	+2	78	+18	43.8%	+9.7P
障害重賞競走	10	±0	0	-1	0%	-10.0P
上記以外の 平地オープン競走 (2・3歳限定を除く)	57	+4	25	-1	43.9%	-5.2P
計	567	+7	374	+23	66.0%	+3.3P

2. 軽種馬の育成調教に関する調査及び研究（公益事業）

競走馬の育成調教技術の向上と牧場環境の改善に資するため、育成牧場における調教、施設、経営、人材の実態を調査した。なお、過去の調査結果は協会ホームページに掲載し、公表している。

3. 軽種馬の育成調教に係わる人材の確保・養成に関する支援（公益事業）

1) 生産育成調教牧場への就業者参入促進事業（BOKUJOB）

競走馬の生産育成分野で働く人材の確保を目的とし、当協会をはじめとした5団体で構成する牧場就業促進事務局（BOKUJOB事務局）が事業を行った。

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が収束し、5月には感染症法上の分類も見直されたことから、「BOKUJOBメインフェア」および「牧場で働こう見学会」を4年ぶりに実施するとともに、サポートデスク、「牧場で働こう体験会」および「研修コース合同体験入学会」などを計画のとおり実施したほか、コロナ禍における対面式の就業相談活動の代替策として実施した「Web相談会」、「Webフェア」を引き続き実施した。なお、「BOKUJOB関西フェア」は、昨年度に続き実施を見合わせた。

① 牧場就業促進ウェブサイトの運営と保守管理

BOKUJOB ウェブサイトの訪問者数等は、スマートフォンからのアプローチを容易にした 2020 年以降の高水準を維持し、75%以上がスマホ利用者であった。

	延べ訪問者数	新規訪問者数	新規訪問者数 スマホ利用者内数	スマホ利用率
2023 年	231,554	160,528	121,161	75.5%
2022 年	260,462	164,645	124,402	75.1%
2021 年	274,561	186,256	140,402	75.4%
2020 年	203,603	136,393	107,416	78.8%
2019 年	138,613	84,618	64,592	76.3%
2018 年	115,610	69,355	50,279	72.5%
2017 年	133,912	81,357	54,151	66.6%
2016 年	148,923	88,473	54,641	61.8%
2015 年	160,488	87,994	51,302	58.3%
2014 年	157,194	54,585	28,722	52.6%

※ 2019 年は 1~10 月の旧サイトと 11~12 月の新サイトの合計

② メインフェア

新型コロナウイルス感染症が収束し、競馬場の入場制限も概ね撤廃されたことから、東京競馬場で 4 年ぶりに実施した。生産・育成牧場の採用担当者や研修機関の担当者から直接話を聞く数少ない機会であり、多数の来場者が熱心に就業相談や進路相談を行う姿が多数見受けられ、参加者の意欲の高さが窺われた。

- ・実施日 2023 年 6 月 3 日（土）、4 日（日）
- ・実施場所 JRA 東京競馬場フジビュースタンド 1 階イーストホール
- ・参加牧場数 28 牧場（Web 参加も含む）
- ・参加団体数 5 団体（研修機関等）

	対象者					保護者 学校関係	見学者	受付来場者 合計
	小学生 中学生	高校生 高専生	大学生 大学院生	社会人 その他	計			
2023 年	12	72	50	98	232	121	82	435
2019 年	15	50	49	63	162	86	6	269
2018 年	21	38	48	35	121	30	82	254
2017 年	—	34	69		103	44	48	195
2016 年	—	50	73		123	61	70	254
2015 年秋	—	36	50		86	34	200	320

③ サポートデスク

競馬場等の JRA 施設、インターハイ馬術競技会場（静岡県）、日本学校農業クラブ全国大会（熊本県）に加え、ノーザンホースパーク（北海道）や三木ホースランドパーク（兵庫県）の馬術競技会場にサポートデスクを設置するとともに、大井競馬場で施行された「BOKUJOB 賞」競走にあわせて広報ブースを設置し、BOKUJOB 活動を広報するとともに牧場就業に関する相談を受け付けた。

実施場所	開催日	来場者			
		2023 年	2022 年	2021 年	2020 年
三木ホースランドパーク	5 月 3～5 日	50			
	11 月 1～4 日	52			
JRA 阪神競馬場	6 月 17～18 日	42	59		
JRA 中京競馬場	7 月 1～2 日	68	44		
ノーザンホースパーク	7 月 21～23 日	38	458 ※5 回実施		
	8 月 9～10 日	43			
御殿場市馬術スポーツセンター	7 月 24～25 日	15	42	45	
JRA 宮崎育成牧場	8 月 11 日	200			
JRA 小倉競馬場	9 月 2～3 日	38	43		
日本学校農業クラブ全国大会	10 月 26～27 日	175	175	176	8
大井競馬場	11 月 5 日	19			

※2020 年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により全てのサポートデスクを中止。

④ 牧場で働こう見学会

牧場での就業を希望する学生・生徒とその保護者などを対象に、JRA 美浦および栗東トレーニング・センター周辺の育成牧場で施設見学と質疑応答を行う催しを 4 年ぶりに開催した。

- ・ 関東地区 3 月 11 日（土） 参加者数 32 組 48 名

見学牧場：ビッグレッドファーム銚田トレーニングセンター、
KS トレーニングセンター、松風馬事センター

- ・ 関西地区 3 月 18 日（水） 参加者数 33 組 48 名

見学牧場：グリーンウッドトレーニング、信楽牧場、ノーザンファームしがらき

⑤ 牧場で働こう体験会

5 泊 6 日の日程で牧場の仕事や BTC、JBBA の研修を体験したり、周辺施設を見学したりする機会を提供した。

- ・ 7月30日（日）～8月4日（金） 参加者数 15名
- ・ 体験受入牧場：杵臼牧場、谷口牧場・浦河育成センター、笹島智則牧場、岡田牧場・目名共同トレーニングセンター、グラント牧場

⑥ 研修コース合同体験入学会

牧場での就業に必要な技術や知識の習得を目的に BTC や JBBA での研修受講を検討している者を対象に、体験入学会を実施した。各回 15 名を募集し、カリキュラム体験、教官や研修生との交流を通じ、研修を具体的にイメージできるような内容とした。

- ・ A 日程 7月19日（水）～21日（金） 参加者数 15名
- ・ B 日程 8月16日（水）～18日（金） 参加者数 14名

⑦ BOKUJOB 号（就業体験応援バス）

牧場での就業体験を促進するため、新千歳空港と日高地区（門別・静内・浦河）を結ぶ送迎バスを運行した。

- ・ 10月24日（火）新千歳空港→浦河
- ・ 10月28日（土）浦河→新千歳空港

⑧ Web 相談会、Web フェア

コロナ禍における対面式の相談活動の代替策として Web を使用した相談活動は、遠方である、日程が合わない等の理由により参加が困難な就業希望者に対しては浸透した施策であることから、引き続き実施した。

- ・ Web 相談会

Zoom を使用した個別面談形式の相談会を引き続き実施した。

- ・ Web フェア

イベントとして集中的に広報展開するとともに、面談を効率よく実施するため特設マッチングサイトを運用した。

- ・ 実施日・場所：11月4日（土）・5日（日） 競走馬育成協会（新橋）
- ・ 方 式：特設マッチングサイトによる個別面談（1面談約30分）
- ・ 相談希望者：32名（うち30名が延べ137面談）
- ・ 参加牧場数：18牧場
- ・ 参加団体数：3団体（研修機関等）

⑨ BOKUJOB YouTube チャンネル

牧場就業希望者に求人牧場を詳しく知ってもらうため、BOKUJOB ウェブサイトに求人情報を掲載している牧場の紹介動画を配信。

- ・ 配 信 期 間：1月11日（水）から原則水曜日に更新

- ・配信牧場数：19 牧場
- ・配 信 内 容：牧場の概要やアピールポイント等の紹介

2) 担い手育成事業

① 修学奨励金交付事業

より多くの者が利用できるよう要件の見直しを行うとともに、交付額の一部を改定した。交付対象者は、BTC 育成調教技術者養成研修および JBBA 生産育成技術者研修の 2023 年度入講生 6 名、公益社団法人日本装蹄協会の 2024 年度認定装蹄師認定講習会入講生 1 名の計 7 名であった。その後、JBBA 入講生の 1 名について途中退所となったため、修学奨励金の返還を受けた。

② 生産育成技術者海外派遣研修事業

生産育成技術者養成機関の卒業生を対象とした研修は、BTC からの推薦者 1 名をアイルランド競馬学校 (RACE) に約 3 か月 (5 月 9 日～8 月 3 日) 派遣した。

長期研修は、当協会会員 1 名についてイギリスなど 3 か国に約 3 か月 (9 月 6 日～12 月 6 日) 派遣した

短期研修は、協会会員や会員牧場の従業員などを対象にアメリカ合衆国への派遣を計画したが、応募が最少催行人員に達しなかったため取り止めた。

4. 軽種馬の育成調教に係わる競争力の向上に対する支援 (収益事業等)

1) セリ市場の振興

若馬育成調教の成果が反映されやすい 2 歳トレーニングセールを対象に、地域団体による後援や実務援助を実施した。

2) 育成調教施設等の整備に対する助成事業

① 軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

育成施設の整備等を目的に会員が受けた融資の利子負担軽減を図るため、公益財団法人全国競馬・畜産振興会から軽種馬生産育成強化資金を受け、2023 年度は新規案件 4 件の承認 (うち 1 件は 2024 年 1 月融資実行)、継続案件 15 件を含む 18 件について利子補給を実施した。

② 競馬関連機材等有効活用事業

JRA 等で使用しなくなった競馬関連の機器・資材などを会員に斡旋し、有効活用した。2023 年度は 1 回の抽選会を実施し、フォークリフト 1 台、トラクター 2 台、ダンプ 1 台、乗用車 1 台、馬場整備車両 4 台、ハロー類 3 台、馬場柵類 3 セットの合計 15 件について募集を行い、14 件の引き取りが完了した。

③ 畜産近代化リース事業

公益財団法人畜産近代化リース協会の行う畜産リース事業について、2023 年度は会員

からの新規案件の申請はなかった。

3) 飼料等高騰緊急対策事業

馬の繋養に必要な飼料、敷料、資材の価格高騰による負担を軽減することを目的に新設された。申請のあった正会員 182 件に対し、審査を経て 1 件あたり給付金 36 万円を交付した。

5. 軽種馬の育成調教に関する情報発信（公益事業）

協会誌「いくせい」の 61 号（10 月 1 日付）を発行し、会員に競走馬の飼養管理や育成技術の向上に役立つ情報を提供した。また、協会ホームページ等を通じ、育成調教に関する情報を発信した。

6. 軽種馬の育成調教に係わる国際交流（公益事業）

関係団体で構成する連絡協議会に参加した。

7. 協会の運営、組織、その他必要な監査等

1) 定時総会

2 月 17 日 14 : 00～ 日本中央競馬会 403 会議室

議案：令和 4 年度事業報告及び令和 4 年度財務諸表について

2023 年度会費等の額及び徴収の方法について

役員報酬等の支給に関する規程の改正について

役員選任について

2) 理事会

① 第 1 回理事会（定例）

1 月 27 日 14 : 00～ 新橋分館 4 階会議室

議案：令和 4 年度事業報告及び令和 4 年度財務諸表について

2023 年度定時総会の開催について（日程、場所、提出議案）

2023 年度定時総会における「議決権行使書」及び「委任状」の取り扱いについて

2023 年度業務委託費の配分方法について

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業実施要綱の改正について

報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告について

② 第 2 回理事会（臨時）

2 月 17 日 13 : 30～ 日本中央競馬会 405 会議室

議案：2023 年度定時総会における「委任状」の取り扱いについて

③ 第 3 回理事会（臨時）

2月17日 15:00～ 日本中央競馬会 403会議室

議案：会長理事、副会長理事及び常務理事の選定について

④ 第4回理事会（書面）

5月15日 提案書の発出

5月29日 決議があったとみなされた日

議案：2023年度事業計画の変更及び収支予算書の補正に関する件について

内閣府への変更認定申請に関する件について

公益社団法人競走馬育成協会会員規則の改正に関する件について

⑤ 第5回理事会（定例）

12月8日 14:00～ 新橋分館 4階会議室

議案：2024年度事業計画及び2024年度収支予算等について

報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告について

⑥ 入会の承認に関する臨時書面理事会

4月18日 1件

7月31日 1件

10月3日 1件

11月14日 2件

12月7日 1件

3) JRA との育成等に関する懇談会

9月29日 10:00～ JRA 本部 4階 403 会議室

懇談内容：セリ市場の動向について

育成牧場における人材確保と養成（BOKUJOB）について

育成等を取り巻く情勢について

その他

4) 協会の組織

① 会員数の動向

	北海道	東北	関東	関西	九州	計	賛助会員
2022年12月31日	83	9	48	29	18	187	8
入会	0	2	3	1	0	6	0
退会	2	0	2	0	1	5	0
2023年12月31日	81	11	49	30	17	188	8

② 役員の動向（役員改選）

2023年度は役員の結果、以下のとおりとなった。

会長理事 栗田 晴夫 非常勤（2月17日退任）

会長理事 大平 俊明 非常勤（2月17日就任）

副会長理事	和田 信也	常勤	常務理事兼務 (2月17日重任)
副会長理事	中内田克二	非常勤	(2月17日重任)
理事	飯田 正剛	非常勤	(2月17日重任)
理事	荻野 豊	非常勤	(2月17日重任)
理事	高橋 司	非常勤	(2月17日退任)
理事	岡田 紘和	非常勤	(2月17日就任)
理事	沖崎誠一郎	非常勤	(2月17日重任)
理事	柏木 務	非常勤	(2月17日重任)
理事	宮島 成郎	非常勤	(2月17日重任)
理事	織田 信美	非常勤	(2月17日重任)
監事	五島 崇	非常勤	(2月17日重任)
監事	岩崎 幸治	非常勤	(2月17日重任)

⑦ 職員等の動向

2023年3月1日	退任・転出	就任・転入	2023年12月31日
業務部長	守山 秀和	小野 圭一	—
事業推進部長	後藤 博英	上村 剛	—